

# いわて便り

No. 13

2017年8月2日発行

8月号

日本生協連  
 組員活動部

北東北の梅雨明けはまだ。曇りや雨の日が続いています。  
 宅地造成の遅れから、まだ岩手県内では約1万人が仮設住宅で暮らしていますが、湿気も多く大変です。  
 早い梅雨明けと、復興が望まれます。



ふれあいサロン

毎月40回開催しています

<陸前高田 サンビレッジ会場>



手縫いでチクチク…今日は何ができるかな。体操やおしゃべりも楽しいな～♪

<宮古市 鯉ヶ崎公民館>

<陸前高田 矢作中仮設住宅>



コープこうべからのプレゼント「つばきのブローチ」

万華鏡を作りました。  
 今回が最後のサロンでした。



さすが！男性の方も手縫いが上手ですね。

## サロンボランティアの声

ある方は 87 歳で1人暮らし。薬を飲んでいないという健康な方で、若さの秘訣は何かと聞くと「いつも訪問してくる人が絶えなくて、バカ話（冗談）を言って笑っているから」と教えてくれました。ボランティア 60 歳代が 3 人だったにもかかわらず「若い人達とお話しできて楽しかった」と言っていたら、嬉しかったです。（宮古市 グリーンピアサポートセンター）

仮設住宅の時の仲間が 10 名集まっておしゃべり。新しい場所での生活に慣れてきているとは思いますが、苦勞した仲間が集まれば話も盛り上がりストレスも発散され、みなさんとても楽しそうでした。（宮古市 川向赤沼家の小屋）



全国の生協からたくさんの支援をいただいています！～おおさかパルコース～

震災直後から様々な支援をしてくださっている「おおさかパルコース」さんでは、毎年被災地で職員研修を実施していただいています。今回は、新入協者4名を含む7名が来県し、陸前高田市や大槌町で復興の取り組みや防災について学習。いわて生協の復興支援活動の取り組みを座学で、また、大槌町の「ふれあいサロン」にも参加し、本場のたこ焼きを振舞っていただきました。研修参加者からは「まだ、思ったより多い人が仮設住宅にお住まいでした。大阪では最近では東日本大震災の報道も少ないので、帰ってから見たことを周りの職員にも伝え、支援を続ける必要があると感じました」と感想がよせられました。



いわて生協では、こうした被災地の職員研修を受けています。ご希望の方はご連絡下さい。



### 震災から6年の今の思い、「初夏のコープのつどい」報告書から

いわて生協では、毎年6～7月に3人以上集まっておしゃべりする「初夏のコープのつどい」を開催し9千人が参加しています。今回の「コープのつどい」では、震災から6年経過した被災地の組合員さんから今の実態や思いがたくさん寄せられました。その一部をご紹介します。

■(みなし仮設の)アパートから仮設へ引っ越したが暑くて思いやられる。家の再建のめどもついたが年齢との戦いだ。 ■工事の影響でほこりだらけで洗濯物、布団も干せません。 ■災害公営住宅の家賃が自分の所得だと68000円になると言われ別の賃貸を探しているの、まだ仮設で不便な暮らしをしている。 ■自宅再建したが、仮設住宅のような近所づきあいもなく寂しい。 ■校庭や公園の仮設住宅は早く集約できればいい。子どもたちがかわいそう。 ■仮設から自宅再建で家を建てるが、新築先周辺では家を建てる人は少ないようで心配だ。 ■独居老人が増えて困っている人を多く見かける。生協の便利なサービスが広がればいい。



### 【岩手県】「いわて震災津波アーカイブ 希望」が公開されています



岩手県では、東日本大震災津波からの復旧・復興の状況を後世に残すとともに、これらの出来事から得た教訓を今後の国内外の防災活動、教育等に生かすため「いわて震災津波アーカイブ 希望」を構築し、2017年3月30日から公開しています。

東日本大震災津波に関する膨大な資料(写真や新聞記事等)を6つのテーマに分類し、テーマごとに時間を設けて応急対策など活動ごとの流れも分かるようになっています。

○いわて震災津波アーカイブ 希望

<http://iwate-archive.pref.iwate.jp/>

発行

日本生協連 組織推進本部 組合員活動部  
電話 03-5778-8124 Fax 03-5778-8125

担当

小池、住吉